

「道徳の時間」学習指導案

主題名：目標に向かって 1－（２）不とう不屈

資料名：「夢をつかまえよう！」（東京書籍「明るい心で」）

学年：6 学年 2 組 31 名（男子 19 名 女子 12 名）

指導者：坂町立坂小学校 教諭 井上 かおり

1. 本時のねらい

「全国大会出場」というクラスでの目標が、自分の失敗のせいでかなわなかった。しかし、そこであきらめず、次の大会へ出場することを決意した主人公の気持ちを考えることを通して、より高い目標に向かって、障害や困難に打ち勝ち、ねばり強くやり通そうとする心情を育てる。

2. 主題設定の理由

- 本主題は、学習指導要領高学年の指導内容 1－（２）「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」をもとに設定したものである。

人として輝いた生活を送るためには、目標を見出し、その実現に向けて、自己を勇気づけ、目標に向かって一步一步前進していくことが大切である。しかし、この時期は、夢と現実との違いを意識する時期でもあり、自分が計画したことでも、困難や失敗に出会うと、すぐにあきらめてしまい、目標をもって生活していく意味を見失ってしまうことも多い。その経験によって、自分に自信がもてなくなってしまうことにもつながってしまう。そのため、身近な生活の中での小さな、しかも正しい目標をもつことの良さや、その目標に向かって着実に前進していこうとする強い意志と実行力などの大切さに気付かせ、生きることへの希望や新しいことに取り組む積極性を育てたいと考え、本主題を設定した。

- 本学級は、道徳アンケートから、努力する人間になりたいと思う児童が 96%、将来のためにがんばりたいと思う児童が 96%であり、目標に向かって努力していきたいと考える児童がほとんどである。しかし、実際には、最初からできないとあきらめてしまったり、地道に努力することを嫌ったり、困難や失敗に出会うと、そこであきらめてしまい、目標に向かってねばり強く取り組もうとすることに課題がみられる児童もいる。

道徳の時間においては、深くじっくり考えるため、言葉で表現するまでに少し時間がかかる児童が多い。しかし、友達の考えから意見を広げ、発言しようとする雰囲気が学級の中にあるとともに、友達の意見をしっかり聞こうとする姿勢が多くみられる。また、全体的に行為の動機を十分に考慮したり、客観的な見方をしたりすることができる。

- 本資料は、クラスで全国大会を目指そうという目標を掲げ、ドッチボール大会に向けて練習を重ねていたが、主人公ゆうじの失敗がもとで、試合に負けてしまい、全国大会への夢が断たれた話である。担任の先生の次の大会参加への呼びかけに対して、クラス全体が、「もう次の大会に出場したくない」という後ろ向きな雰囲気があった。しかし、「このまま終わっていいのか・・・」という気持ちがゆうじの心に生まれ、「もう、やりたくない。」気持ちとの間に迷いが起こった。そして、「ぼくは、やりたい」と決心し、みんなに伝えた。それに対し、クラスみんなも賛同し、次の大会に臨むことになった。「夢をつかまえる」ために、あきらめなかったゆうじの強い思いや態度が描かれている。

- 指導に当たっては、導入では、4月に掲げた学級目標「SAKURA～最高学年として導く・クラスの一員としての自覚をもつ・ラストまで全力をつくしあきらめない」について思い出させ、それぞれの児童が4月にもった卒業までの思いを想起させる。

展開前段では、まず、目標を掲げた時のゆうじの気持ちを問い、ゆうじに共感させる。その後、大会に負けた後のゆうじが、「もうやめたい」「このまま終わらせたくない」と迷っている心情を比較しながら考えさせる。その際、ネームプレートを使用し、自分の意見をもたせる。そして、中心発問で、「このまま終わらせたくない」という思いが膨らみ、みんなの前で「ぼくは、やりたい」と言ったゆうじの行為に対し、客観的視点に立って考えさせる。その際、ゆうじの行為から学んでいきたいことを考えることで、ねらいとする道徳的価値に迫らせる。

展開後段では、自分の夢の実現のために、大切な心について考えさせた上で、今までの自分を見つめ、振り返らせる。

終末では、4月から、最高学年として目標実現のために頑張っている姿を写真で見ながら、これからの実践意欲につなげていきたい。

3. 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き (◎中心発問)	○指導上の留意点 ☆評価 ★発達段階の考慮
導入	1 「学級目標」を思い出し、4月の思いを想起する。	○6年2組の学級目標について思い出し、学級目標に対する4月の自分の思いについて思い出してみよう。 ・1年生の世話をしっかりする。 ・縦割りリーダーとして頑張る。 ・3月に、学級目標であるさくらを咲かせる。	○学級目標や4月に書いた作文を想起できるよう、学級目標の掲示と作文ファイルを各自に持たせておく。
展開前段	2 「夢をつかまえよう！」を読んで話合う。	○「全国大会をめざそう」と決めた時、ゆうじは、どんな気持ちでしたか。 ・よしやるぞ。 ・全国大会に出てみせる。 ・一生懸命練習しよう。 ○迷っているゆうじの気持ちを考えてみましょう。 もうやめてくれよ ・もう、自分のせいで、負けたくない。 ・いくらやっても、全国大会は無理。 このまま終わっていいのか ・まだ、目標を達成していない。 ・負けたまま終わるのは、くやしい。 ・せっかく一生懸命練習したことが、無駄になってしまう。	○場面絵を活用し、状況把握をさせ、ゆうじのやる気に共感させる。 ○迷っているゆうじの思いに共感させる。 ★それぞれの心情を比較しながら根拠を考えさせる。 ○もうやめたいというゆうじの気持ちをしっかり引き出させる。 ○ネームプレートを使用し、自分の意見をもたせる。

		◎「もうやめたい」と思っていたまわりの友達が「ぼくは、やりたい」と言ったゆうじの言葉から、自分もやろうという気持ちになったのは、なぜだと思いますか。 ・負けたまま終わらせたくないと思ったから。 ・チームのためにがんばりたいと思ったから。 ・みんなの前で、「やりたい」と言ったゆうじの勇気が伝わったから。 ・もう一度チャンスがあるなら挑戦したいという自分に負けない気持ちから。 ・夢をあきらめたくないと思っているから。 ・目標に向かってあきらめたくないから。	○みんなの前で、「やりたい」と伝えたゆうじを客観的立場から考えさせ、ねらいとする「目標に向かって」という道徳的価値に迫らせる。 ★ゆうじについて、クラスみんなの立場から客観的に考えさせる。 ○ワークシートに自分の考えを書かせる。 ○ワークシートに自分の考えを書かせた後、ペアトークを取り入れ、発表させる。
展開後段	3 自分の生活を振り返って考える。	○あなたは、夢や目標実現のためにどのような心を大切にしていきたいですか。今やっていること、これからやっていきたいことなどを書いてみましょう。	○自分を振り返り、自分の生活について考えさせる。 ★資料から離れて、これからの自分について考えさせる。 ○ワークシートに自分の考えを書かせる。 ☆生活を振り返り、これからやっていきたいことを書いている。
終末	4 本時のねらいとする価値についてこれからの生活に生かそうという意欲をもつ。	○1学期の自分のがんばりを振り返らせるとともに、これからの実践意欲につなげていく。	○縦割り班活動や運動会、1年生の世話をしている様子の写真をBGMとともに映し、実践意欲をもたせる。